目標規定文の作成

産業界からの論文発表を
促進するための研究会

高木　義和

1

目標規定文　（高木）

- 論文全体の枠組み決める
  - Q：事例をどのように論文にまとめれば良いか？
  - Q：論文を書きたい意欲はあるが手がかりが欲しい
- 論文のテーマ/研究の目的を再確認する
- 論文の主張点/結論を予め規定する（仮説でも良い）
  - 論文の論理的な展開が収束する到達目標
  - 新規かつ一般的であること
- 目標規定文の主張点に収束するように論文全体の構成を考える
  - 論文の章立ては主張点を説明できるように考える

- 目標規定文
- 論文は文章で表現される
  - 論文にしたい内容があればまず文章で表現する
- 論文の主張点を規定する文章が目標規定文
  - 明らかにする内容と、主張点が必用
  - 主張点は論文の論理的な展開が収束（到達）する目標（主張点）
  - 主張点に収束するように論文全体の構成を考える

- 論文作成の有用な指針となる。
  - 作成が行き詰まったときに目標規定文に立ち返って再構成する
- 仮説で良い
  - 論文作成中に修正可能

4

発見・発明型論文

- 新奇/新規な現象や法則を発見する
- 新規な化合物や生物やDNAを発見する
- 新規な法則を見出す
- 新規な製造法を発明する
- 新規な発見や発明の意義については可能性を述べることができる

問題解決型論文

- 問題の認識
  - 対象の問題点/不都合現状から理想的な状態を想定する
  - 現状を客観的に認識し、理想的な状態と現実の間に存在する違いを明らかにする
- 違い(問題)を解消するための仮説を設定する
  - その問題を解決するために参考になる先行文献の調査を行う。適応対象がことなる類似の手法なども調査する。
  - 調査結果を踏まえて問題を解決するにはどのような方法があるか仮説(主張)を考える
- 目標規定文
  - 問題を解決するための仮説(主張)を文章にする

6

事例研究論文

- 既に事例が存在する
  - 現実の事例から仮説を考える
  - 問題解決型論文と異なる
- 事例と事例を実施する前の違いに、新規性・進歩性・有用性が含まれることをあきらかにする
- 新規性
  - 新しい技術の提案
  - 新しい考え方の提案
- 有用性
  - 広く学会員の役に立つ内容

7

体系化/一般化/抽象化

- 事例を実施する前の問題を含む状況を*客観的に*整理する(A)
- 事例の持つ新規性/有用性を論理的・実証的に主張する(B)
- 主張点の作成
  - 仮説を構築するため事例の体系化/一般化/抽象化を試みる
  - なるべく事例の条件を単純にする(モデル化)
  - 事例が特別な場合にのみ成立するのではなく、一定の条件で、一般的に成立することを説明する

8

目標規定文の作成（定型の様式はない）

- ----------を明らかにし、------を主張する
  - 事例を実施する前の状況を（A）を明らかにし、事例の持つ新規性/有用性を主張する
- 客観的に明らかにすること（A）
  - 自社のシステムとして新しい、効果があると言えても、客観的というには他社や研究機関や海外の情報に基づく説明が必要
- 事例の新規性/有用性を主張すること（B）
  - 事例がもつ新しい技術や考えかたが（A）とのギャップをうめるために有効であること、あるいは事例が有用な知見を含んでいることを論理的に主張する

9

論理的展開

- 言語論理法
  - 言葉を用いて説明、証明、論証する
- 記号論理法、数式論理法、
- 実証解析法
  - 実験やデータによって証明する
  - 事例研究の場合困難であるが論理的展開のためにデータを補強できる場合もある

10

実践報告との違い

- レポート
  - ××システムを作りました
  - △△教育を実施しました
  - 主張点がない
- プレゼンテーション
  - 有用な（新しい）××システムを作りました
  - 効果のある△△教育を実施しました
  - 有用性、有効性が客観的でない

神沼ppt　Ｐ７の例より

11

目標規定文の作成

- 練習
  - 身近な事例で目標規定文を作成してください
- ――――――を明らかにし、――――を主張する

12